

富山市定例市長記者会見（令和4年7月21日）

■冒頭

市長

皆さんこんにちは。

報道関係の皆様には、忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。今日は発表案件6件と新型コロナウイルスに関する報告が1件あります。よろしくお願いいたします。

■令和4年度「家事ダン」マイスター認定講座の開講について

市長

今年も8月から全6回にわたり、「家事ダン」マイスター認定講座を開講いたします。

この講座は、男性の家事参画を促し女性の負担を減らすことにより、女性活躍推進のための環境づくりを目的に平成29年度から実施しており、今年で6年目となります。これまで156名が受講され、全講座を受講された81名をマイスターとして認定いたしました。

「家事ダン」マイスター認定講座は、料理、洗濯、掃除など家事全般に係る基本を学ぶものでありますが、男性が家事に触れることで家事に対する理解を深め、また、考えるきっかけづくりにしていただきたいと思います。

現在、受講者を広報とやま7月20日号やホームページを通じて募集中であります。市関係施設や富山県が認証している市内の男女共同参画推進事業所、約50社にポスターやチラシを配布し、掲示していただくなど、周知を行っているところであります。

男性の家事・育児への参画は、女性の活躍が推進されるだけでなく、

男性の働き方を見直すきっかけにもなり、ワーク・ライフ・バランスの観点からも重要であると考えております。特に、子育て世代の男性においては、このような機会を利用して、家事に参画するきっかけにいただければと思っております。

■ 農林水産物をもっと！楽しモーキャンペーンについて

市長

長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、市内の飲食店やホテル等の利用率が低迷することで、市内産農林水産物の消費についても影響が長期化しております。

このことから、令和 2、3 年度に引き続き、市内産農林水産物を使用したメニュー等を提供している飲食店等で利用できるクーポンを発行する、「農林水産物をもっと！楽しモーキャンペーン」の第 3 弾を実施することで、生産者の方々を支援したいと考えております。

このクーポンの利用要件は昨年度と同様となっており、富山市内産農林水産物等を 1 品目以上使用した 500 円以上の料理及びテイクアウト商品、デリバリー商品、または富山市で醸造された 500 円以上の酒類を、認定メニューとして登録いただいた飲食店や宿泊施設で利用できます。

クーポンは、500 円割引クーポンを 12 枚 1 組にした 1 冊 6,000 円分の冊子を 15,000 冊発行することとしており、令和 4 年 8 月 8 日（月）から 9 月 9 日（金）までの期間で利用者の募集を行います。発行予定数を上回る応募があった場合は抽選を行い、発行予定数以下の場合は応募者全員にクーポンをプレゼントします。

次に、利用できる飲食店等の募集については、昨日令和 4 年 7 月 20 日（水）から始まっており、12 月 2 日（金）まで受け付けをしております。

なお、利用可能な飲食店等と、対象となるメニューについては、本キャンペーンの特設サイトにて、随時公表してまいります。

また、クーポンの利用期間は、令和4年10月1日(土)から、12月11日(日)までとしております。さらに、テイクアウト商品や、デリバリー商品も利用可能としておりますので、今後、新型コロナウイルスの感染状況に変化があったとしても、対応できるものと考えております。

利用期間中は、ちょうど新米のシーズンでもありますから、ぜひクーポンを活用いただいて、本市のおいしい農林水産物で「食欲の秋」を楽しんでいただきたいと考えております。

■第9回とやま森の四季彩フォト大賞について

市長

とやま森の四季彩フォト大賞は、富山市内の森林や里山の風景、農山村の人々の暮らしなどの写真を通して、富山の自然の豊かさ、環境保全の必要性などを市内外に広く発信することを目的として平成18年度に第1回を開催しました。その後、第5回までは毎年開催していましたが、第6回からは3年に1回開催しており、今年度、第9回を迎えます。

富山市の約7割を占める「森林」をテーマに広く作品を募集いたしますが、題材としては、富山市の森林、里山の風景や人々の暮らし、生き物等を捉えた「森の風景・暮らし部門」と、富山市の森林、里山での家族、友人等との楽しいスナップがテーマの「ファミリースナップ部門」の2部門で構成され、応募受付期間は9月16日から10月31日までです。

令和元年11月以降に富山市内で撮影された未発表の作品でしたらプロ、アマを問わず、どなたでも応募いただけますので、どんどん応募していただきたいと思っております。

ここで本市の政策参与であり、とやま森の四季彩フォト大賞の審査委員長でもあります写真家のテラウチマサトさんが、本日この会場にお越しになっておられますので、本フォト大賞に向けて一言いただきたいと思っております。よろしく申し上げます。テラウチさん申し上げます。

テラウチさん

テラウチマサトです。ありがとうございます。

とやま森の四季彩フォト大賞の審査員長は、第6回からさせていただいていますが、去年1年間、2021年4月1日から今年（2022年）3月31日までの森の四季彩フォト大賞のホームページのクリック数を見ていましたら、当然富山県が1番なんです。そして2位が東京、3位が愛知、大阪と続くんですが、今年度（2022年）4月1日から7月10日までの3カ月と10日間の間のホームページのクリック数は、東京が断トツに増えており、次いで富山と（なっています）。森の四季彩フォト大賞は富山県の人たちが応募するだけではなく、全国から応募して欲しいという要望どおりに増えてきてはいるのですが、ぜひ富山に住んでいる人が、富山の魅力を写真で伝えて欲しいという思いもあり、今日ここに立たせていただきました。ぜひ、富山の方への応募を呼びかけていただければありがたいと思います。

写真というのは、通り過ぎる一瞬を捉えたり、あるいは皆さんもよくご存知だと思いますが、事物の真実を暴いたり、あるいは世界を開示したりできるものです。前回、第8回の一般の部の四季彩賞になった作品、そして高校生の部の大賞になった作品、見ていただいてわかると思いますが、写真というのはやはり味があるし、そして色気のあるものだなと思うんですね。言ってみれば、写真というのは目の前にあるもの、そこに存在するものしか写らないものなんですけど、にもかかわらず、見えないものが写る。そんな写真の楽しさを、富山の豊かな色彩や里山の風景を通して撮っていただければ富山の魅力を、大げさかもしれないけれど世界に発信することもできますし、僕が生まれた大好きな富山のPRを市民の人の力でできるのであれば、こんなにうれしいことはないと思っています。

写真には、自分の見えないもの、あるいは自分の感じないもの、そして自分の考えていないものは写らないと思います。富山の方が、里山の風景、豊かな自然、そこに住む人たち、こんなに素晴らしいんだというものを、撮ったもので応募していただければ、富山の魅力がより広がっていくのではないかというふうに思っております。ぜひ、皆さんのお力をお借りして、富山の方々、ないしは近辺の方々にこの写真の魅力、このコンテストの魅力をお伝えいただければと思い、ここに立たせていただきました。

以上です。どうもありがとうございます。

市長

テラウチさん、ありがとうございました。素晴らしいコンテストになるように私たちも一生懸命、協力したいと思います。よろしくお願いします。

■公共交通利用促進月間の実施について

市長

本市では、夏休み期間中の親子での公共交通の利用や、アフターコロナを見据えた公共交通の利用促進を図るため、8月1日から8月31日までの1ヵ月間を、重点的に公共交通の利用促進を図る期間である「公共交通利用促進月間」として設定し、更なる利用促進につながるイベントの開催やメディアを活用した公共交通の普及啓発等を実施することとしております。

公共交通利用促進月間中の主な取り組みをご紹介します。

まず、8月21日は、親子でのおでかけに公共交通の利用を促進することを目的として、富山駅を会場とした「とやまレールライフ・フェスタ」を開催します。当日は、地元商業者をはじめ、プロスポーツチームや交通事業者など多くの団体の方々が多彩な企画のブースを出店することとしております。

次に、夏休み期間中に、対象の交通機関を親子で利用する場合、子供と保護者の運賃が無料となるきっぷを市内の小学校、特別支援学校を通して配布し、公共交通を利用した親子でのおでかけ機会の創出を図ります。先ほど説明したとやまレールライフ・フェスタの会場に来られる際などにご活用いただければと思います。

また、8月1日からは、八尾コミュニティバスのルートやダイヤなどを見直す社会実験を実施し、更なる利便性の向上を図ることとしております。

続いて、8月24日、25日は高等学校の総合的な研究時間での公共交通の利用促進に関する現状と課題を説明する講義を予定しており、それらをもとに高校生自らが課題解決策を考えていただくこととしております。

そして、7月16日から開催されているあいの風とやま鉄道でのスタンプラリーや、8月21日から31日まで、富山地方鉄道がカターレ富山と連携して実施する駅巡りラリーなど交通事業者によるイベントとも連携します。

さらに、公共交通の利用促進や普及啓発を広く周知するため、富山市の広報番組「とやま情報局」やケーブルテレビ、富山シティFMで公共交通に関する市の施策の情報発信を行うとともに、市ホームページや公式ツイッター、庁内放送を活用した普及啓発も随時実施してまいります。

ぜひ多くの方々に期間中の公共交通の利用をはじめ、関連する様々なイベントにご参加いただき、日常生活における公共交通の積極的な活用について考えていただけるきっかけになればと思っております。

■親子でおでかけ事業の拡充について

市長

先ほど触れましたが、富山市では、公共交通を利用する機会を提供し、公共交通を選択する意識の醸成を図るため、従来から、夏休み期間に小学生を対象に交通事業者が運賃を無料とする親子でおでかけきっぷの取り組みを実施しております。

今年度は新たに、保護者用の無料乗車きっぷの配布などを行い、アフターコロナを見据えた公共交通の更なる利用促進を図ることとしております。

保護者用の無料きっぷは、夏休み期間中に交通機関を親子で利用する場合、保護者の運賃が無料となるきっぷで、全6枚綴りとなっております。交通機関は、あいの風とやま鉄道、富山地方鉄道の鉄軌道・路線バス、

富山市民プラザのまいどはやバス、市内各コミュニティバスが対象となります。いずれも市内区間のみが対象で、小学生用のおでかけきっぷと同様、7月21日から8月31日までの期間でご利用いただけます。

更におでかけきっぷの利用促進を図るため、市内の駅や公共施設を対象とした、クイズラリーを開催いたします。

クイズラリーはおでかけきっぷが利用できる期間に併せて実施し、小学生及び保護者それぞれを対象としております。おでかけきっぷと一緒に配布する解答用紙に、各施設にあるクイズの解答を記入の上、賞品応募された方へ、抽選で110名、(内訳は)小学生、保護者各55名の方に素敵な賞品をプレゼントするという大変わくわくする取り組みとなっております。小学生、保護者の多くの方々に積極的にご参加いただき、プレゼントを取得していただければと思います。

また、クイズラリーに1問以上答えた解答用紙を市内の協賛店で提示すると、別紙資料に記載のとおり、各協賛店にて買い物の割引や食事の1品サービスなどの特典サービスを受けられます。提供は1店舗につき1回のみとなります。

なお、このお得な特典は、協賛店の方々が本市の公共交通を推進する取り組みに関して、大いに賛同していただいたことによって実現したものであります。

本市といたしましては、本取り組みがきっかけとなり、公共交通の利便性を実感いただき、日々のライフスタイルにおいて新たに公共交通を利用する方が増え、アフターコロナを見据えた、公共交通の更なる利用促進が図られることを期待しております。

■市営八尾コミュニティバスの社会実験について

市長

社会実験についても先ほど少し触れましたが、富山市では、市営八尾コミュニティバスにおいて、これまでの利用実態や地元からの要望を受け、ルートやダイヤの見直しを行い、サービスレベルを向上することで、利用

者の増加や利便性の向上について検証する社会実験を8月1日から行います。

現在、八尾コミュニティバスは八尾中核工業団地への通勤や八尾高校への通学で利用されている八尾中核線、八尾高校線以外の路線は、利用者が年々減少している傾向にあります。

このことから、利用者の乗車目的の傾向を調査し、スーパーマーケットや温浴施設といった利用者が多い施設への運行回数を増やして利便性の向上を図るとともに、利用者が少ない便は一部運休することといたします。

見直しの対象路線は、10路線あるうちの八尾環状線、杉原線、保内線、大長谷線、黒瀬谷線、室牧線、野積線の7路線であります。

具体的な変更点といたしましては、八尾環状線は、従来、温浴施設のゆうゆう館を経由する約50分のルートでありましたが、八尾地区の主に旧町エリアとスーパーマーケットや公共施設、駅などを30分間隔で循環するルート、ダイヤに変更するとともに、1日12便の運行から14便に増便いたします。

杉原線は、これまで保内地区は通らないルートでありましたが、杉原地区や保内地区から、ゆうゆう館の利用者が多かったことから、旧町エリア、杉原地区、保内地区とゆうゆう館を60分間隔で循環するルート、ダイヤに変更するとともに、1日2便の運行から5便に増便いたします。

保内線は、従来、ゆうゆう館を経由する約50分のルートでありましたが、保内地区とスーパーマーケットや公共施設、駅などを30分で循環するルート、ダイヤに変更するとともに、1日2便の運行から4便に増便いたします。

大長谷線は、14時台に運行していた大長谷温泉行きの便を、小学生の下校時間に合わせた運行時間に変更いたします。

黒瀬谷線、室牧線、野積線は、それぞれの路線で利用者が少ない昼間の便を1便ずつ運休することといたしました。

そのほかの路線でも運行時間が一部変更となっておりますので、詳細は市のホームページで確認していただければと思います。

本市としましては、今回の社会実験の利用状況やアンケート等により利用者のニーズや効果を検証し、令和5年度以降のルートやダイヤを検討することで、さらなる利便性の向上に努めてまいりたいと考えております。

■ 報告事項（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

本市の新型コロナウイルス感染症の感染状況については、先週に入り状況が一変し、感染が急速に拡大しており、昨日は本市において308名、本日は速報値で過去最多の517名となっております。

県内においても、昨日、過去最多の感染者数を更新しております。感染拡大のスピードは、これまでと比較にならない速さであり、予断を許さない状況であると認識しております。

市民の皆様におかれましては、さらなる感染拡大をできる限り防ぐため、これまでと同様に「3つの密」を避けるなど、基本的な感染予防対策の徹底とともに、咳、発熱など少しでも体調が悪ければ、出勤や外出を控えていただくなど、引き続き、うつさない、うつらない行動の徹底をお願いいたします。

また、感染された場合、ご本人は療養期間終了まで外出が出来なくなります。濃厚接触者も、不要不急の外出を控えていただくこととなります。いざという時のために、服薬中の薬や食料品、日用品をご準備していただくようお願いいたします。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種についてご報告いたします。

本市における、接種状況につきましては、お手元の資料のとおりですが、7月20日現在で、3回目となる追加接種を受けられた方は、269,692人、全人口に対する接種率は65.1%となっております。

また、4回目接種を受けられた方は、19,866人となっており、このうち60歳以上の方は18,868人、率にして12.8%となっております。

先ほどご報告しましたとおり、本市においても感染が急拡大しておりますので、接種対象となる 60 歳以上の方や基礎疾患のある方につきましては、接種券が届き次第早めに予約、接種していただきますよう、お願いいたします。

また、急速な感染拡大傾向にある中、今のところ行動制限はかけられておりませんので、旅行やイベント、レジャーなどに出かけられる方もいらっしゃるかと存じます。

市民の皆様には、引き続き基本的な感染防止対策を徹底していただきたいと思いますが、ご自身を守ることはもとより、ご家族や友人など大切な人を守るためにも、是非ともワクチン接種を受けていただきますようお願いいたします。

なお、先週 14 日の岸田総理の記者会見において、4 回目接種の対象を、医療従事者や高齢者施設従事者にも拡大する旨が表明されたところであります。今後、国の審議会や必要な手続きを経た上で接種が始まる見込みとなっております。

本市では、3 回目接種から 5 か月が経過する 18 歳以上の全ての方に接種券を送付しておりますが、接種対象が拡大され次第、速やかに接種を進められるよう、ご案内してまいりたいと考えておりますので、現時点で接種対象とならない方も、お手元に届いた接種券は破棄せずに、当面は大切に保管しておいていただきたいと思っております。

■ 質疑応答

記者

第 26 回参議院議員通常選挙が 7 月 10 日に投開票されました。

選挙結果（当選者・投票率）に対する市長の受け止めをお聞かせください。

市長

まず当選された野上浩太郎先生ですが、これまで国土交通副大臣、内閣官房副長官、あるいは農林水産大臣（を務められた）ということで、地域が抱えるさまざまな問題、日本が抱える問題、そして外交等も含めて、確実にその実績を残してこられたということだと思います。その野上先生に対する県民の信任があった（という）結果であったと思っております。これからも県民の負託を受けて、富山市、富山県のためのみならず、日本のために、しっかりとご活躍いただけるようご期待を申し上げます。

次に投票率等を含めた選挙結果であります。報道等によりますと、最終的な投票率は、全国で52.05%、県においては51.37%、本市においては48.77%と認識しております。

この投票率を見て率直な感想ではありますが、低いのではないかと感じております。最近、地方選挙においてもそうですが、投票率の低さが大変目立っておりますし、それに対して、私たちがしっかりと投票率を上げるように、啓発活動をしなければならないと（思います）。あるいは、私たちの民主主義の根幹に当たる大切な国政選挙であり、私たちの代表として法律を作る、もっと言えば、未来を作っていくような大事な仕事を担う国会議員の皆さんを選ぶ選挙でありますので、その投票率を何とかして上げていく必要があると、私自身も含めて反省しているところであります。

例えば、市議会の皆さん、県議会の皆さん、もちろん市当局、県当局、あるいは県選挙管理委員会、市選挙管理委員会等で、主権者教育や啓発活動を行っていますが、これだけではなく、やはり小さい時からそれぞれの発達段階に応じて、民主主義とは何か、選挙とは何かということを私たち自身も学ばなければならないし、子どもたちに学んでもらう機会が必要ではないかと率直に感じております。

=====

記者

昨日、新田知事が知事選の際に旧統一協会系団体から選挙応援を受けていたと認めましたが、藤井市長は市長選の際に、そういった団体から選挙応援を受けたことはありますか。

市長

一度、その集會に、選挙期間中か後援会活動中かは忘れましたが、いずれにしても市長選挙に際して集會に呼んでいただいて、そこでスピーチをさせていただいたというような記憶があります。

記者

それはどういった団体名でしょうか。

市長

世界平和統一家庭連合です。

記者

安倍元総理銃撃事件で、多額の献金によって家庭崩壊した方もいらっしゃるということで社会問題化している団体だと思うんですが、そういった認識があったうえで講演されたのでしょうか。

市長

いいえ、ありませんでした。

記者

一連の報道がなされた後での、講演したという受け止めはいかがでしょうか。

市長

私としては、これは純粋に選挙の応援をしていただいているということで、その時は政策の発表もしていましたので、家庭の平和や地域の繋がり
の大切さということに賛同していただいて、発言の機会をいただいたと認識して、皆さんの前でも、そのような社会を作りたいという趣旨の発言を
させていただいたことを覚えています。

今となっては、本当に純粋な方々だなという印象がありますので、詳細
についてはいろいろとこれから勉強させていただきたいと思いますが、その
時はその認識もなかったですし、その団体が引き金でこのような事件が

起きたということであれば、遺憾に感じているところであります。残念だなと思います。

記者

旧統一協会系団体の平和大使協議会から平和大使に市長は任命されていると思いますが、これをどう受け止めていますか。また、その経緯をお聞かせください。

市長

平和大使の集いか平和の集いか、そのような集いに1回呼ばれて、ご挨拶をさせていただく機会がありました。そこで、平和大使の任命書みたいなものをいただいたことを記憶しております。

その集いも、私は（冒）頭しか出なかったのですが、世界平和を考えるというような集いでしたので、特に違和感はなく、受け止めていたところです。

記者

最後に、一連の報道がなされている団体ということで、こういった旧統一協会系団体との今後のつき合い方についてどのように考えていらっしゃいますか。

市長

ここではっきりどうこう申し上げるわけにはいかないわけですが、1回しっかり立ち止まって、自分なりに考えてみたいと思います。

=====

記者

今の質問に関連してなんですが、市長は昨年の市長選挙で党内の予備選も含めて、旧統一協会から支援を受けたことはありますか。

市長

予備選挙は全くないと思います。

先ほどもお答えしましたが、本選に入る前の後援会活動か選挙に入った選挙期間中かは定かではありませんが、集会に1回お招きいただき、その場でスピーチさせていただいたという記憶がございます。

記者

去年5月に富山市で開かれたそのオープンカレッジに参加されたということですが、こちらは市教育委員会が後援されています。まずこのことについてはどう受け止めていらっしゃるでしょうか。

また、自身の出席について、県議の出席もあるようですが、以前から出席されていたのか教えてください。

市長

県議の時代は出席したことはありません。

市の教育委員会（の後援）については教育委員会のことですから、私が申しあげることではないと思いますので発言を控えさせていただきます。

その集いにつきましては、中身はやはり平和に関することだったのではないかと思います。強い違和感を感じなかったと思います。

記者

市教育委員会としても適正なものという回答を得ていますが、今後このイベントにつきまして、後援の申請があった場合、どうされますか。

市長

教育委員会で考えられることだと思いますが、私は、市長としての立場としては、先ほどと同じですが、1度立ち止まって考えてみたいと思っています。

記者

今後の市長自身の参加につきましてはどうされますか。

市長

それも含めて考えてみます。

=====

記者

富山県教育委員会が少子化を受けて、県内の県立高校の学級数の見直しに入っていますが、一部の自治体が、(学級数の見直しを)しないように要請するなど、議論が先送りされているという状況にあります。市内の2校もその再編の対象に入っていますが、市長の受け止めをお聞かせください。

市長

富山市も小中学校を対象に再編の議論を進めておりますが、高校も全く一緒だと思います。適正な規模を確保して、いろいろな方とコミュニケーションを取ったり、切磋琢磨したりする、そのような機会を持っていたきたいということで、その規模を確保するために、統合の準備を進めているということだと思います。

特に今おっしゃったのは雄山高校だと思いますが、町長や地元県議からクラスを減らさないようにという要望活動があったということは報道で存じ上げておりますが、いずれにしても、急激な少子化が進んでいる中で、やはり適切な教育を適切な規模で、例えば団体行動や部活動、切磋琢磨する場面や多種多様な考え方に触れたりする機会を確保するためには、規模というのは避けて通れない条件だと思います。そのようなことからすると、そのお気持ちはお気持ちで尊重しますが、やはり生徒のためになることを主にこれから議論が進むことを望んでいます。

記者

富山中部高校と富山高校も1学級ずつ減るということですが。

市長

この二つの高校は富山県の教育を引っ張って来られた優秀な高等学校であり、卒業生の数も多いわけであります。それぞれの思いがあると思いますが、どんな高校であっても、今の統廃合の議論というのは避けて通れないと考えています。

=====

記者

先ほど選挙期間中もしくは後援会活動中に旧統一協会系団体の集会に出席したというお話がありましたが、どういった経緯でそういったお声がかかったのか、どれぐらいの人数の前でお話になられたのかなど、詳細をもう少し教えてください。

市長

どなたからの紹介かということはありませんが、私の後援会もしくは対策本部の方から、こういう集会があるから行って話をしてはどうかという推薦があったので、出掛けて行ったという経緯であります。

そこへ行くと 60～70 名ぐらいはいらっしやったと思います。そういう方々の前でお話させていただいたということです。

記者

会場は、いわゆる先ほどおっしゃられた世界平和統一家庭連合が持っている施設でしょうか。

市長

そのような会場です。

記者

(集会への出席は) 対策本部からの流れでということでしたが、本部には県議の方や市議の方などいろいろな方がいらっしやると思いますが、どういった方が仲立ちに入られたのでしょうか。

市長

それはわかりません。

記者

そういうお話があった場合に、政策的なこと、ご自身の理念的なことについて団体に通じるものがあったという発言もありましたが、何か取り決めや約束されたことに関してはいかがでしょうか。

市長

具体的な取り決めや約束はないんですが、皆さんの前でスピーチをさせていただいて、そのスピーチの内容については、地域が大事だとか、家庭が大事だとか、未来を担う子供たちをしっかりと育てていくのが大事だと、そのためには地域を思う心を持った子どもを育てなければならないというような趣旨の発言を、私はさせてもらったと思います。それで拍手をいただいたので、賛同いただいたのではないかと考えています。

記者

逆に、何かを取り交わした、約束をしたというようなことはないのでしょうか。

市長

そのようなことは全くありません。

記者

現在、この団体とのお付き合いなどについてはいかがでしょうか。

市長

特にこれとって、現在、日頃から頻繁にコミュニケーションをとっているわけでもありませんし、連絡を取りあっているわけでもありませんので、今まで通りということですが、先ほどもお答えしましたが、今般の事件も受けまして、一部政治と宗教との繋がりみたいな部分もかなりスポットを浴びていますので、しっかりと私自身も考えてみたいと思っています。

記者

市教育委員会の後援については、昨年及びその前にも後援をされていると伺っています。(オープンカレッジに出席した際は)強い違和感を感じなかったということですが、現在このように取り沙汰されている中で、改めて今後のあり方や後援の承認について、市の(後援の)承認基準の中には特定の思想政治または宗教上の活動に係るものというのは後援を承認しませんとある中でこのようになっていることについてはいかがお感じでしょうか。

市長

市教育委員会の後援に関しては、市教育委員会が、ご指摘があったものに照らして、しっかりと考えていかれることであると思っています。

市長部局のことに関しては、先ほど申しましたとおり、もう1回しっかりと立ち止まって考えてみたいと思います。

去年と今年1回ずつ、計2回、市長の出前トークを、その（関連）団体さんに呼ばれて行っています。内容は富山市の目指すスマートシティということで私が富山市の政策を約1時間お話しさせていただき、そのあと質疑応答をいただくということでもあります。その時も、質問や議論のやりとりの中身は子育てに関する支援や地域に対する支援、医療に対すること、年金に対すること、子供たちの教育に関することなどに終始したと思います。もちろんその中で平和な未来みたいな話も出ました。市長の出前トークは、しっかりした公務として行っておりますので、私は富山市の政策をしっかりとの方々にお伝えするという仕事として行っております。

これは、その団体さんだけではなくて、いわゆる自治会も含めてあらゆる団体さんからその依頼があれば、可能な限りお応えして、私が出向いて、そういう（富山市の政策を）お話をさせていただいて、その機会に意見交換をさせていただくということです。たくさんある（出前トークの）中の非常に貴重な機会でありますので、その中の一つと捉えて参加をさせていただきました。

記者

ピンポイントでそこだけのために出前トークというものがあったのではなく、数多く開催されている中の一つに去年と今年1度ずつそのような団体での出前トークがあったという認識でよろしいでしょうか。

市長

そうです。

記者

立ち止まって（考えてみたい）というお話をいただいておりますが、今お

っしゃったように、宗教と政治の距離感というのが非常に取り沙汰されていると思います。当時は理念等に共感もあったと思いますが、今、改めて様々な問題点を指摘されている団体でもあると思います。そうした団体に選挙中に協力を得たことや出前トークに出席されていることについては、現時点でどのようにお感じでしょうか。

市長

現在、報道等にある（安倍元総理銃撃事件の）容疑者の犯行動機に至った経緯等が真実であれば、本当に遺憾なことだと考えています。もしそれが真実であれば、それを受けて、1度立ち止まって、それも含めて、今後どういうふうな形がいいのかということ私自身考えてみたいと思っています。

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課